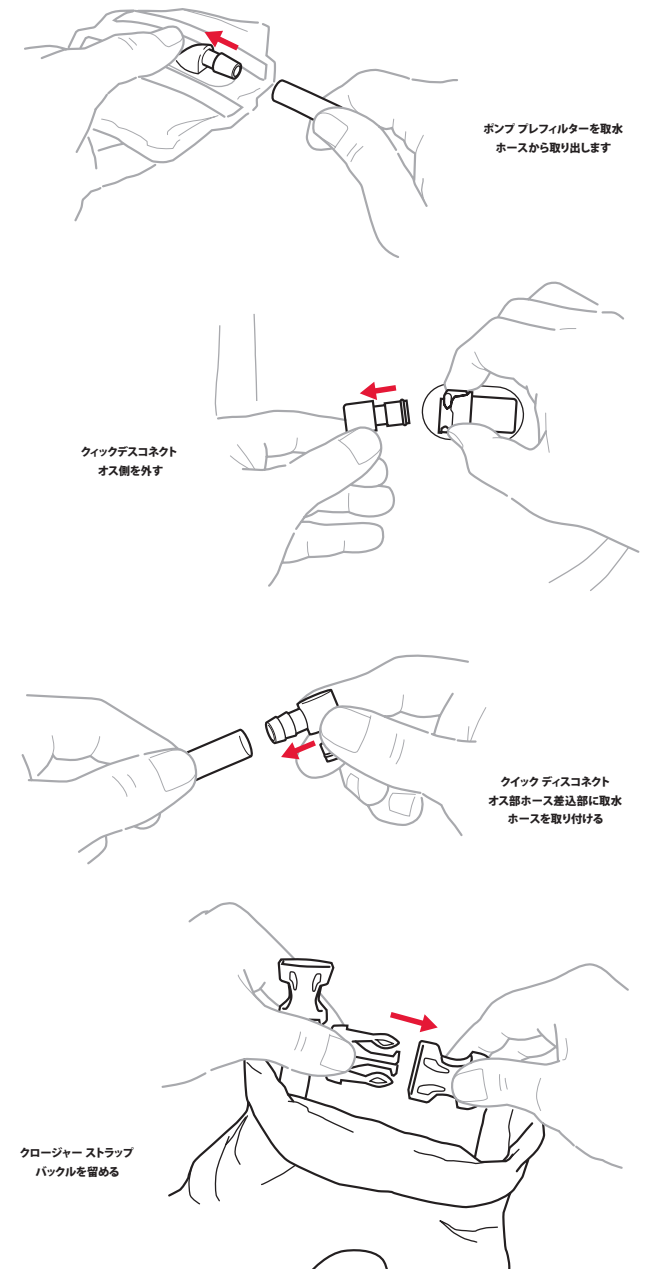


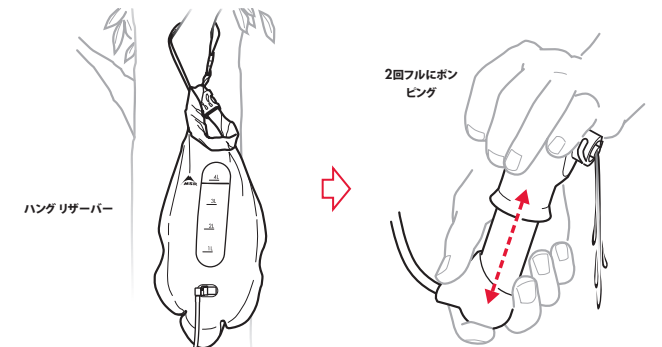
1 グラビティー キット システムを準備する

- HyperFlow グラビティー キットは MSR® HyperFlow™ Microfilter 専用のオプション商品で、グラビティー (重力) 方式のポンピングフリーの浄水器になります。
- MSR Hyperflow Microfilter に付いているプレフィルターを外します。
↳ シャットオフ クランプを外した取水ホースに通します。(シャットオフ クランプは開いた状態)
取水ホースの反対側は、まだポンプ シリンダーの取水ホースパープに接続したままです。
 - クイック ディスコネクト オスをダーティコレクション リザーバーのクイック ディスコネクトメス側から外します。
↳ クイック ディスコネクト オス側ホース差込部に取水ホースを接続します。
 - ダーティコレクション リザーバーにろ過していない水を入れます。
 - ダーティコレクション リザーバーのクロージャー ストラップの上を 4 回折ってバッグを閉めます。
↳ クロージャー ストラップのバックルを留めます。



2 ポンプを準備する

- 取水ホースのもう一方を、取水ホース パープに接続します。
- ダーティコレクション リザーバーをハンゲ ストラップで吊るします。
注意: 取水ホースをピンと張らず、きれいな容器を地面に置いて、ダーティコレクション リザーバーを十分に高い位置まで吊るします。
- クイック ディスコネクト オス側を取り付け直します。
- ポンプ アウトレットが上にくるようにポンプを垂直にします。
- ポンプを 2 回フルにポンピングして空気を取り除き、水を流し始めます。

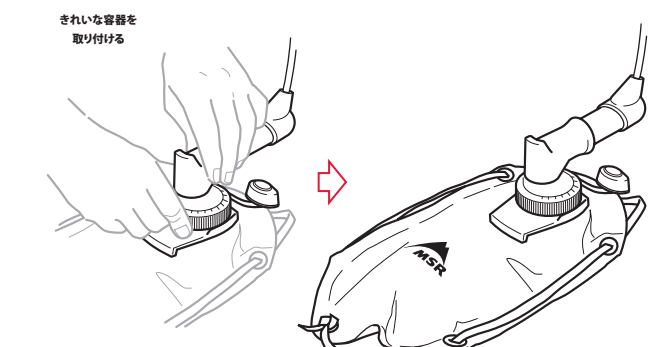


警告

ポンプの取り扱いには十分注意してください。フィルターが損傷すると、有害な微生物から保護することができません。フィルターがポンプのハウジングから落ちた場合、フィルターが損傷していないか必ず点検してください。ポンプを 0.9m 以上の高さから硬い表面に落とした場合、フィルターが損傷していないか検査してください。(フィルター テスト ガイド、HyperFlow Microfilter キット内容を参照) フィルターに欠陥がある場合、使用を中止してフィルター カートリッジを交換してください。

3 水のろ過

- きれいな容器をアウトレットアダプターまたはポンプのアウトレット ニップルに取り付けます。(ヒントを参照)
↳ ろ過中の二次感染を防ぐため、クリーン サイドカバーをボトルアダプター プラグに取り付けます。
- ダーティコレクション リザーバーからポンプ経由で、きれいな容器に水を流します。水流をとめるには、シャットオフ クランプを閉じます。



警告

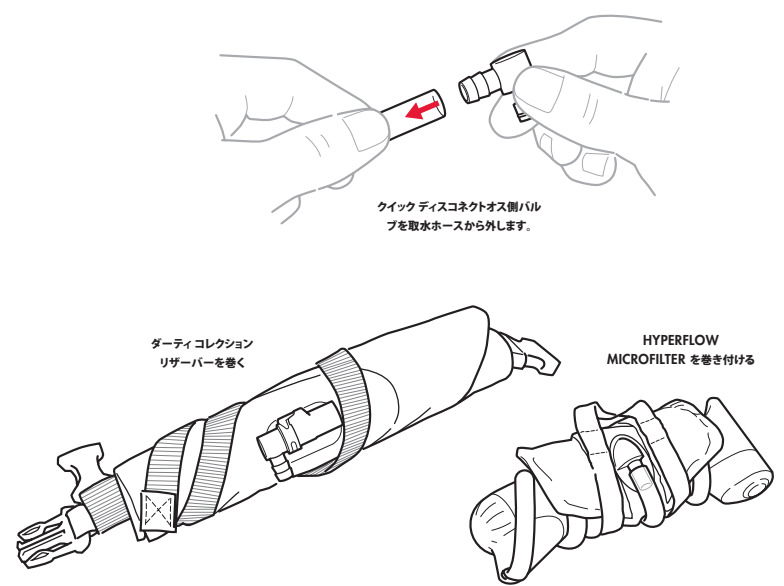
水をろ過する際、きれいな容器が汚染されないように、汚れた水あるいはろ過していない水がかからないようにしてください。

4 グラビティー キットの収納および保管

- クイック ディスコネクト オス側バルブを取水ホースから外します。
↳ シャットオフ クランプを取水ホースから外します。
- フィルターをポンプして、ポンプや取水ホースに残っている水をすべて抜き取ります。
- クリーン サイドカバーをアウトレット アダプターに取り付け直します。
↳ ポンプ プレフィルターを取水ホースに取り付け直します。
- ダーティコレクション リザーバーをきれいな水ですすぎます (可能な場合)。
↳ プレフィルター スクリーンのゴミを取り除きます。
↳ 余分な水を、タオルを使うか、振って取り除きます。
- ダーティコレクション リザーバーを巻いて、収納袋に入れます。
- ポンプ シリンダーの周囲に取水ホースを巻き付けます。
↳ プレフィルターのクロージャー ストラップをプレフィルターと取水ホースの周囲に巻き付け、ポンプ アッセンブリを固定します。
↳ ポンプアッセンブリを収納袋に入れます。

旅行のあとと長期間保管する前には、フィルター カートリッジをバックフラッシュします。

フィルターを長期間保管する前または長期間保管した後、あるいはフィルターを長期間使用した後 (連続 15日以上) は、必ずフィルターを消毒してください。(MSR®HyperFlow™Microfilter の取扱説明書または www.msrgear.com をご覧ください。)



警告

フィルター カートリッジを低温 (32°F/0°C 未満) で保管しないでください。フリーザーが凍ると内部の繊維が損傷し、元に戻りません。ポンプのフィルター部分は常に洗って乾燥させてください。カビ、白カビ、およびバクテリアの繁殖を防ぐために、長期保管の前に必ずフィルターを消毒してください。高温により損傷したり、溶けたりする可能性があるため、部品の消毒には食器洗浄機や電子レンジを絶対に使用しないでください。